

## 支援物資・災害情報が確実に届く避難所開設に対するマンションの取り組み

### 災害時に支援物資や災害情報が避難所に届くためには

「被災者に支援物資が届かない」、災害時によく聞かれる話である。災害時には多くの支援物資が集まるが、配布や情報共有の方法が確立していないことが要因のひとつと言われる。阪神淡路大震災では、小学校など自治体が把握している避難所で食料が配布されるため、マンションなど自宅で避難生活をする人は食料をもらうために、避難所に通っていたことを思い出した。

「自治体が避難場所を認識することで、食料などの支援物資や災害情報が届く」ということは意外と知られていないが、いざという時にはとても重要となる。この点を日常から住民に知ってもらおうと活動するマンションがある。

大阪市住之江区のファミリートーク新北島は、住民に加えて、町内会や他のマンション住民も巻き込み、被災直後の避難所開設と各避難所間の情報共有と統括のしかたについて、インターネットを使ったシステムである大阪市災害情報システムDIOSを用いた机上訓練を2016年7月31日（日）に開催した。

### ファミリートーク新北島の“120分間防災”への取り組み

マンションは大和川の堤防に隣接していることから、南海地震による津波が到着すると言われる120分の間に避難を終えることを念頭に防災訓練を積極的に開催してきた。地震発生時は各自の安全を確保し、「安否確認シート」を用いて各階住民の安否確認を行うと共に、4階のエレベーターホールに臨時対策本部を設営する。



インターネットを使った机上訓練の様子

大阪市災害情報システムDIOSにより、マンション内に開設した避難所を自治体が認識することで支援物資が到着し、災害情報をはじめ避難所間の情報共有が実現する。

### 大阪市災害情報システム DIOS

副理事長の加治屋直喜氏は、釜石から帰ってきた区職員から、支援物資の配布や避難場所の把握の難しさを聞き、中学校の教員である立場を生かすことでGoogle から安価でシステム提供を受け、大阪市災害情報システムDIOS ([https://sites.google.com/a/osakacityhall.info/osaka\\_bousai/](https://sites.google.com/a/osakacityhall.info/osaka_bousai/))を開発した。

システム DIOS では、「災害時における被害の状況や、避難所における支援要請、必要物資などをさまざまな情報を一元管理し、誰もがその情報を利用する」ことができ、「各避難所と区災害対策本部を IT で結び、最新の情報をやりとりすることで、的確かつスムーズに災害対応を行う」ことが可能になると加治屋氏は語る。



大阪市災害情報システムDIOSのサイト

### システム DIOS 活用への課題と今後の目標

2013年にシステムは公開されたが、システムを管理する加治屋氏が中学校を退職した後は、Google から安価なシステム提供を受けることが困難となり、システム普及のためにも仲間の拡大が目標である。問い合わせは、ファミリートーク新北島管理組合法人防災対策委員会の加治屋直喜副理事長まで。

E-mail: [kajiya.naoki@osaka.email.ne.jp](mailto:kajiya.naoki@osaka.email.ne.jp)

(研修員 山下香)